

平成24年度 事業報告書

学校法人鉄蕉館

— 目次 —

I 法人の概要・・・P 1

1. 法人の沿革
2. 設置する学校
3. 学生数
4. 法人役員等

II 事業の概要・・・P 3

1. 亀田医療大学の開学・・・P 3

- (1) 教員組織、運営体制の構築
- (2) 教育内容・方法等の充実
- (3) 研究活動の推進
- (4) 学生への支援
- (5) 教育研究等環境の整備
- (6) 社会連携・社会貢献
- (7) 教育研究情報の発信
- (8) 学生募集
- (9) 管理運営
- (10) 将来構想

2. 亀田医療技術専門学校の充実・・・P 6

- (1) 教育の充実
- (2) 学生募集
- (3) 東日本大震災に係る被災学生への授業料等減免措置（看護学科のみ）
- (4) 広報活動
- (5) 施設・設備等の整備
- (6) 学生住宅について
- (7) 新任教師の確保

III 財務の概要・・・P 9

1. 平成24年度資金収支計算書
2. 平成24年度消費収支計算書
3. 平成24年度貸借対象表
4. 平成24年度財産目録

平成24年度事業報告書

I 法人の概要

1. 法人の沿革

◇学校法人鉄蕉館（平成21年4月23日から）

平成21年4月23日 学校法人鉄蕉館に名称及び所在地学校法人鉄蕉館寄附行為変更認可

12月25日 亀田医療技術専門学校看護学科及び助産学科の看護師等養成所の
指定を受ける（関東信越厚生局長 平成22年4月1日適用）

平成22年3月31日 亀田医療技術専門学校設置者変更及び学校法人鉄蕉館寄附行為変更認可

4月1日 亀田医療技術専門学校を設置（医療法人鉄蕉会から継承）

平成23年10月24日 亀田医療大学設置認可及び大学設置及び法人所在地等学校法人鉄蕉館寄附
行為変更認可

10月31日 亀田医療大学看護学部看護学科の看護師学校の指定を受ける（文部科学大
臣 平成24年4月1日適用）

平成24年3月29日 結城幼稚園及び結城第二幼稚園 廃止

4月1日 亀田医療大学看護学部看護学科開学

◇学校法人結城学園（平成21年4月22日まで）

昭和24年2月26日 結城幼稚園の設置認可により開園（設置者 森田彦英）

昭和44年3月1日 結城幼稚園設置者変更（設置者 森田彦英→宗0教法人満蔵寺）

4月1日 結城第二幼稚園の設置認可

平成元年3月31日 学校法人結城学園設立認可

3月31日 結城幼稚園及び結城第二幼稚園 設置者変更認可

平成17年7月7日 結城幼稚園及び結城第二幼稚園 閉園願い提出

平成20年2月29日 結城幼稚園及び結城第二幼稚園 休園届を提出

2. 設置する学校

亀田医療大学 鴨川市横渚 462

平成23年 亀田医療大学設置

平成24年 亀田医療大学開学（看護学部看護学科80名）、第1期生受入れ

亀田医療技術専門学校 鴨川市東町 1343-4

昭和29年 亀田病院准看護婦学校

昭和41年 医療法人鉄蕉会亀田総合病院高等看護学院（2年課程）設置

昭和54年 3年課程へ変更、専修学校の認可

平成4年 第1看護学科（3年課程）80名、第2看護学科（2年課程）40名、

准看護学科 30 名の 3 学科を持つ看護専門学校となる

平成 12 年 亀田医療技術専門学校に改称

助産学科 20 名を設置。准看護学科を廃止

平成 20 年 第 2 看護学科を廃止。第 1 看護学科を看護学科に名称変更

3. 学生数

亀田医療大学

学部・学科	入学定員	現員数	
		1 年次	合 計
看護学部看護学科	80	85	85

(注) 平成 24 年 5 月 1 日現在

校地 20,147.68 m²

校舎 7,811.41 m²

亀田医療技術専門学校

学 科	入学定員	現 員 数			
		1 年次	2 年次	3 年次	合 計
助産学科 1 年課程	20	16	—	—	16
看護学科 3 年課程	80	81	89	80	250

(注) 平成 24 年 5 月 1 日現在

校地 3,045.91 m²

校舎 5,315.73 m²

4. 法人役員等

理事、監事及び評議員の状況。(以下、平成 25 年 3 月 31 日現在の状況)

(1) 理事 (定員 6 名、現員 6 名)

理事長 亀田 省吾

理事 クローズ 幸子

理事 亀田 隆明

理事 森田 英仁

理事 小池 由久

理事 野田 みづき

(2) 監事 (定員 2 名、現員 2 名)

監事 田中 治樹

監事 五十嵐 達

(3) 評議員 (定員 13 名、現員 13 名)

評議員 亀田 省吾

評議員 熊澤 美奈好

評議員 山崎 美佐子
評議員 石川 健二
評議員 中村 周二
評議員 丸山 祝子
評議員 小関 敬子
評議員 渡邊 八重子
評議員 亀田 隆明
評議員 能勢 賢一
評議員 飯倉 政雄
評議員 森田 英仁
評議員 クローズ 幸子

(4) 教職員

①学校法人本部

事務職員 11 名（亀田医療大学からの兼務）

②亀田医療大学

専任教員 15 名（学長含む）

事務職員 15 名（うち学校法人本部との兼務 11 名）

③亀田医療技術専門学校

専任教員 22 名（うち 1 名は副校長）

事務職員 7 名

II 事業の概要

平成24年4月に亀田医療大学が開学し、初めての学生受入れを行い、大学の運営、教育・研究、学生支援等の諸活動が開始された。

学習環境の充実に資するため前年度から工事を進めてきた亀田医療技術専門学校学生寮が竣工した（平成24年6月）。また、地元の地方公共団体からの補助金等を財源として、亀田医療大学学生会館が整備された（平成25年3月）。

学校法人鉄蕉館の中長期計画として、今後5年間に重点的に取り組む事業計画等を策定し、これに沿って計画的に事業展開（人材養成、施設・設備整備、資金調達等）を行うとともに、経営基盤の拡充を図ることとした（平成24年11月）。

1. 亀田医療大学の開学

平成23年3月亀田医療大学設置認可申請後、大学設置・学校法人審議会の審査を経て、平成2

3年10月24日に文部科学大臣から大学設置認可を受け、平成24年4月に亀田医療大学が開学、看護学部看護学科（入学定員80名）に初めての入学生85名を受入れるとともに、専任教員14名の採用を行った。大学設置の理念・目的を達成するため、大学設置計画に基づき、教育を開始するとともに、次の事業を行った。

(1) 教員組織、運営体制の構築

大学の教育研究に関する重要な事項を審議する教授会を、教員候補者の選考、入学者選抜等の事項を審議するための教授で構成する教授会と、主に学務事項を審議するための助教以上で構成する拡大教授会を設置するとともに、具体的な諸課題について検討・調整を行うための各種委員会（管理運営、教務、学生支援、研究支援関連の11委員会）を設置するなど、大学の組織的な運営体制を構築し、学長のリーダーシップの下で大学運営及び開学時の諸課題に対応した。

教授会、各種委員会等は、毎月定例又は臨時に開催し、運営、教育研究上の諸課題に対応した。

(2) 教育内容・方法等の充実

大学開学1年目に当たり、看護学科1年次生の教育を円滑に進めるため、シラバス、学生生活案内の冊子を学生に配付、学生ガイダンスの実施、学生掲示板等により学生への教育及び学生生活上の情報の周知を図った。授業科目の開講に当たって、語学について教育効果を高めるため複数クラス分けを行ったほか、科目によっては、授業補助者を配置し、円滑な授業の実施を図った。また、教員の授業改善に役立ててもらうため、学生による授業評価アンケートを全授業科目について行った。

(3) 研究活動の推進

科学研究費助成金の説明会を、日本学術振興会の担当者を招き開催し、平成25年度の科学研究費助成金への応募申請に役立てた（平成25年度科学研究費委助成金申請7件）。

学校法人と医療法人鉄蕉会、社会福祉法人太陽会との間で教育・研究等の分野で連携を図るため、ユニフィケーション活動に関する協定を結び、亀田総合病院看護部と連絡会を定例的に開き、連携の方法・課題等について調整を行った。

また、保健・医療・福祉の分野の研究を発展させるため、亀田総合病院等と連携して研究を行う組織として総合研究所の設置に向けて、ブレインストーミングを開催するなど検討を進め、平成25年4月1日に設置することとした。

(4) 学生への支援

初めての学生の受入れを行い、学生への各般の支援に対応した。

学修支援について、医療法人鉄蕉会、日本学生支援機構、千葉県等の奨学金の相談や貸与申請手続きを行った。

生活支援について、心の健康、保健衛生等の相談に適切に対応するため、学外にスクールカウンセラーの配置や、学生専用住宅居住者の生活相談等に対応するためのキャンパスアドバイザーを置き、各種相談体制をとった。また、防犯・交通安全等についての指導を警察署に依頼し行った。性教育についての講演を実施した。学生のアルバイトについては、学生の修学に支障を来さないよう求人先を選定し照会した。

健康管理について保健室を置き、健康診断に当たっては、通常健康診断に加えて臨地実習の際

必要となる感染予防対策として、免疫調査のための抗体検査及びワクチン接種を実施した。

学生の自主的活動であるスポーツ、文化等の課外活動のための部室を、屋内運動場、武道館に10室確保し、備品（テーブル・椅子）を整備した。また、新たに建築した学生会館に自治会室及び部室（3室）を整備した。学生の課外活動の部・サークルは15団体となっている。学生自治会による大学祭の開催に際し、大学から備品・消耗品等の支援を行った。また、医療法人鉄蕉会、社会福祉法人太陽会、KMC、KTS、亀田産業株式会社をはじめ地域の企業・有志の皆様から物心両面から支援をいただいた（11月3日（土）4日（日）約2,000名の来場）。

平成25年度入学生の対応として、自宅通学困難な学生の住まいの確保を前年度に引き続き行い、ワンルームタイプアパート2棟（愛称：ラミア・カーサ、メゾン・グランジュッテ）（新営）のほか含めて30室を12年間一括借り上げるとともに（敷金礼金等なし）、大学近傍の住宅（アパート情報）を紹介した。

（5）教育研究等環境の整備

大学の理念・目的を実現するため、大学設置計画に沿って、学生の教育に必要な実習設備・備品等を整備した。また、図書館の図書、学術情報資料を計画に沿って整備するとともに、文献検索等の希望に対応した。

さらに、食堂、講堂、学生ロッカー室、多目的室等を備えた学生会館を建築し、学生が学修し生活するにふさわしい教育環境の整備を図った。なお、食堂は地元鴨川市商工会女性部有志が企業組合マザーズを立上げ、地元食材を利用し手作りのお母さんの味として提供、運営することとなった。

（6）社会連携・社会貢献

図書館の学外利用のため、試行的に医療法人等の職員を対象に学外利用を開始した。災害時の避難場所として大学施設の使用について提供するとともに、鴨川市の避難防災訓練に参加し、地域住民の避難受入れを行った。また、地域の学校・市民等の施設の避難経路等の見学希望に対応した。看護の日に千葉県看護協会安房支部主催行事に参加し、看護職人材養成について資料の配布、説明を行った。

（7）教育研究情報の発信

大学案内の作成、ホームページ等の内容の充実を図り、学生、受験生、社会一般、教職員に対して、大学の理念・目的、教育課程編成・実施方針、学生受入方針、教育研究活動等の状況を掲載し、教育研究情報を発信した。また、大学の1年間の活動状況を記録した年報を作成することとした。

（8）学生募集

平成25年度の学生募集においては、前年度の学生募集の実施状況を踏まえ、ホームページの充実、ネット媒体の活用、オープンキャンパスの実施（8回うち亀田総合病院の協力を得て病院施設を見学するコース5回）、進学相談会への参加、高校訪問等、より効果的な大学情報の発信、広報活動を行い、学生の応募増につながるよう努めた。なお、高校訪問等において専門学校の学生募集案内を配付し広報を行うなど連携して行った。

平成25年度入学者選抜の方法は、推薦入試（指定校推薦、公募推薦）と大学入試センター試験（Ⅰ期、Ⅱ期）によって行った。入学者選抜の方法が限定されたこと等もあり、入学志願者数は入

学定員の1.5倍であった。入学志願者等の状況は次のとおり。

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続者数
推薦入試	指定校	30	7	7	7	7
	公募	10	28	28	28	28
センター 試験	1 期	35	82	63	62	41
	Ⅱ 期	5	5	5	4	3
合 計		80	122	103	101	79

(9) 管理運営

教育研究に関する重要事項を審議するための教授会の設置、具体的な諸課題について検討・調整を行うための各種委員会を設置するなど、大学の組織的な運営体制を構築し、学長のリーダーシップの下で大学運営及び開学時の諸課題に対応した。

大学業務を円滑、効果的に行うため、事務職員を採用し事務組織を充実するとともに、学外の各種業務等の説明会、研修会等に参加するなどにより、職員の能力の向上を図った。

(10) 将来構想

大学院構想について、検討を進めるため、プロジェクトチームを発足させ、検討準備に着手した。

2. 亀田医療技術専門学校の充実

(1) 教育の充実

亀田医療技術専門学校は教育目標に、助産師、看護師として必要な知識・技術・態度を修得させ、保健医療福祉チームにおいて高いモラルを有する専門職として社会の要請に応え、人々の幸福に貢献できる人材の育成を図ることを掲げている。

これまで関係者の努力のもと、すぐれた人材の育成を行ってきており、看護師及び助産師国家試験の合格者については前年度より減少がみられるものの9割の合格率を維持している。

助産師、看護師国家試験の状況

区分	助産学科			看護学科		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成24年度	16名	15名	93.8%	74名	67名	90.5%
平成23年度	16名	15名	93.8%	58名	56名	96.4%
平成22年度	15名	15名	100.0%	52名	52名	100.0%
平成21年度	16名	14名	87.5%	39名	36名	92.3%
平成20年度	16名	16名	100.0%	54名	54名	100.0%

(2) 学生募集

①平成25年度の学生募集に関する入学試験を下記の通り行った。

・助産学科（定員 20 名）

社会人選考	平成 24 年 10 月 20 日（土）	募集定員 5 名
一般選考	平成 25 年 2 月 7 日（木）	募集定員 15 名

（学内推薦 3 名を含む）

・看護学科（定員 80 名）

推薦選考（指定校）	平成 24 年 10 月 20 日（土）	募集定員 30 名
（公募推薦）	平成 24 年 10 月 20 日（土）	募集定員 15 名
社会人選考	平成 24 年 10 月 20 日（土）	募集定員 10 名
一般選考 A	平成 25 年 1 月 26 日（土）	募集定員 20 名
一般選考 B	平成 25 年 3 月 16 日（土）	募集定員 5 名

※一般選考 A のみ、本校と仙台会場の 2 ヲ所で試験を実施

②上記の入学試験の結果、助産学科 13 名、看護学科 89 名の入学が確定した。

学科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
助産学科	20	29	23	16	13	1.4
看護学科	80	243	216	116	89	1.8

（3）東日本大震災に係る被災学生への授業料等減免措置（看護学科のみ）

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に係る被災学生に対して、授業料等（受験料・入学金を含む）の減免事業を行った。該当学生への面談や、罹災・被災証明書・保護者の申請から、下記の通り減免措置をとった。

平成 24 年度 授業料等減免措置対象者数

学年	全壊・流失・全焼 原発事故・大規模半壊 50%減免（280,000 円）	半壊・半焼 30%減免（168,000 円）	合計
1 年次	5 名	2 名	7 名
2 年次	5 名	2 名	7 名
3 年次	3 名	1 名	4 名
合計	13 名	5 名	18 名

（4）広報活動

①ホームページの活用

- ・広報活動の一環として、亀田医療技術専門学校のホームページ（以下 HP）の活用に重点を置き、更新されていないページ等の見直し、学校のイベント・ニュース等を更新し、学校の最新情報の発信に努めている。また HP では直接、学校パンフレット・募集要項の取り寄せや、問い合わせができるため、その対応についてはできる限り迅速に行っている。
- ・学生募集関連の会社の専用検索サイトと契約し、学校紹介のページを作成。学校ガイド・募集要項等の取り寄せもそのサイトを通じて行い、成果を得ている。またそのページにリンクを貼り学

校HPへと誘導もしている。

②進路相談会

- ・進路相談会には高等学校主催、学生募集関連業者主催などがあり、教員が会場に直接出向き、高校生に対し看護職についての講話や技術演習の実施、カリキュラムなどに説明を行い、本校をより深く知ってもらう機会を得ている。

③オープンキャンパス

- ・平成24年度は前年度までのバスツアーを廃止し、参加体験型のオープンキャンパスを開催（助産学科1回・看護学科3回）し、192名が参加した。参加者からは「在校生から話がたくさん聞けて良かった」「与薬や経管栄養などほかでは体験できないことができた」「分娩介助等を経験し、助産師についてもっと知りたいと思った」「亀田に入学したい」など、好評な意見を多く得た。

平成24年度オープンキャンパス参加人数

学科	開催日	参加人数
助産学科	7月26日	19名
看護学科	7月31日	57名
	8月3日	58名
	8月24日	58名
合計		192名

(5) 施設・設備等の整備

① 1号館

- ・2F講義室の椅子の更新
- ・1F事務室のエアコン更新

② 2号館

- ・1F看護教員室の整備（椅子・複合機・LAN）
- ・1F多目的室、2F助産教員室のエアコン更新

(6) 学生住宅について

一人用学生住宅が平成24年7月に完成し、翌8月から学生の入居を開始した。

(7) 新任教師の確保

助産学科 1名

看護学科 2名（1年間、専任教員養成講習受講）

大学通信教育（看護専任教員養成課程）受講者2名

III 財務の概要

平成 24 年度収支予算は平成 24 年 3 月 8 日開催の評議員会及び理事会において議決、その後平成 24 年 11 月 27 日開催の評議員会及び理事会において収支補正予算（第 1 次）を議決、これに沿って適正執行に努めてきたところであるが、年度末までの間に法人部門（人件費及び管理経費）並びに大学部門管理経費及び設備関係費に予算の不足を来したため、経理規程第 55 条第 1 項の規定に基づき、資金収支予算、消費収支予算とも所要の部門間流用及び大科目間流用を行った。

具体的には法人部門の不足額 2 百万円（百万円未満切り捨て（以下同様））については専門学校人件費から、大学部門の管理経費の不足額 4 百万円については大学人件費から、設備関係費の不足額 1 百万円は施設関係費から流用した。

この結果、大学部門及び専門学校部門に計上した予備費の使用は行わなかった。

また、経理規程第 55 条第 2 項に規定する同一科目内の小科目間流用については、過不足額把握等の観点から、月次財務諸表に係る経理運営責任者決裁によって行い、年度決算においても予算額（流用後）と執行（決算）額の対比を行えるようにした。

1. 平成 24 年度資金収支計算書

（資金収入）

学校法人鉄蕉館全体の資金収入は、2,765 百万円（うち前年度繰越支払資金 646 百万円）と予算対比 27 百万円減となったが、これは補助金収入 372 百万円（千葉県補助金 156 百万円、安房郡市補助金 100 百万円、夷隅郡市 76 百万円等）が期末未収入金となったこと及び預かり金収入等のその他の収入の増 375 百万円によるものでありこれを勘案すると概ね予算どおりとなった。

資金収入（前年度繰越支払資金を除く）の主なものは、特別寄付金収入 313 百万円（大学 235 百万円、専門学校 78 百万円）、補助金収入 372 百万円（大学 332 百万円、専門学校 39 百万円）、学生生徒納付金収入 320 百万円（大学 152 百万円、専門学校 168 百万円）、授業料等前受金収入 243 百万円（大学 144 百万円、専門学校 99 百万円）、事業収入（主に学生専用住宅寄送料）40 百万円（大学 18 百万円、専門学校 22 百万円）となった。

補助金収入については、平成 23 年度における亀田医療大学整備に対する千葉県補助金 649 百万円、鴨川市補助金 200 百万円に加えて、学生会館整備財源として千葉県から 156 百万円、夷隅郡市から 76 百万円（いすみ市 43 百万円、勝浦市 22 百万円、大多喜町 11 百万円）、実習用機器備品等設備整備財源として安房郡市から 100 百万円（館山市 49 百万円、南房総市 42 百万円、鋸南町 9 百万円）が措置され、亀田医療大学は平成 23 年度に引き続き地元地方公共団体に支えられた。（夷隅郡御宿町は 8 百万円余を学生会館整備財源として 25 年度補正予算に計上頂く予定。）

特別寄付金についても、医療法人鉄蕉会からの寄付 200 百万円を初めとして引き続き多岐にわたる法人・個人に支えられた。

亀田医療大学設置財源及び開設年度経常経費所要額を寄付金及び公的資金等で確保した上で 200 百万円を学生会館整備財源として長期借入（大学本館・研究棟担保（償還財源：寄付金））した。また、専門学校学生寮整備（24.6 末竣工）に当たり 100 百万円（定期預金担保（償還財源：寄送料））の長期借入を行った。

（資金支出）

学校法人全体の資金支出は、2,765 百万円（うち次年度繰越支払資金 646 百万円）と予算対比 27 百万円の減となったが、期末未払金 339 百万円、前払金支払支出 4 百万円及び預かり金支出等のその他の支出の増 370 百万円を勘案すると概ね予算どおりとなった。

資金支出の主なものは、施設関係支出 656 百万円（大学(学生会館（コモンズ鉄蕉館）整備等)582 百万円、専門学校（学生寮整備等）74 百万円）、設備関係支出 168 百万円（大学（教育研究用機器備品等）159 百万円、専門学校 9 百万円）、教職員人件費支出 423 百万円（法人本部(職員)4 百万円、大学 238 百万円（うち教員 155 百万円、職員 83 百万円）、専門学校 180 百万円（教員 145 百万円、職員 33 百万円、退職金支出 2 百万円）、教育研究経費支出 140 百万円（大学 83 百万円、専門学校 57 百万円）、管理経費 113 百万円（法人本部 4 百万円、大学 65 百万円、専門学校 43 百万円）となった。

大学部門教員研究費については、750 万円（内学長裁量経費 146 万円）を措置したが執行額は 464 万円（内学長裁量経費 20 万円）執行率 61.9%に留まり、執行残額 285 万円については 25 年度末までに限り繰越使用できることとした。

管理経費には学生専用住宅（大学 3 棟 34 室 34 人分、専門学校 4 棟 42 室 84 人分）の賃料 45 百万円（大学 18 百万円、専門学校 26 百万円）を含んでいるため管理経費支出額は相対的に大きくなっている。

（参考：施設設備費概要）

大学部門主要施設整備費

コモンズ鉄蕉館工事（大林組）	525 百万円
〃 4 階（ミズキホール）音響工事（〃）	25 〃
〃（〃）固定イス工事（岡村製作所）	19 〃
〃 設計請負（モノリス）	17 〃

（学生会館は平成 24 年 7 月 15 日に着工、設計変更に伴う一部工事を除き 24 年度中に工事を終え、25 年度入学式のみズキホールでの開催に備えた。また 1 階学生食堂（亀ママキッチン）は、企画競争（プレゼン）を経て、鴨川マザーズ企業組合（鴨川市商工会女性部有志で設立（24.12.10））に運営委託することとし、1 月末に試食会を行い学生から愛称・ロゴマークを募集、25 年度 4 月初めからの営業開始に備えた。）

大学部門主要設備整備費

実習機器備品（島津理化）	36 百万円
IT 基盤整備費（リース元本（リース会社））	30 〃
〃（学務システム等（東日本電信電話株））	32 〃
什器（机・イス等（岡村製作所））	14 〃

専門学校部門施設主要整備

学生寮 24 年度工事（(株)フジタ）	60 百万円
---------------------	--------

これらの結果、次年度繰越支払資金は、646 百万円（法人本部 11 百万円、大学 476 百万円、専門学校 158 百万円）となった。

資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	319,565	320,980	△ 1,415
授業料収入	196,921	198,206	△ 1,285
入学金収入	40,500	40,500	0
実験実習費収入	20,000	20,000	0
施設管理費収入	56,892	57,002	△ 110
雑費収入	5,252	5,272	△ 20
手数料収入	12,461	11,032	1,429
入学検定料収入	8,865	8,115	750
その他収入	3,596	2,917	679
寄付金収入	270,000	313,981	△ 43,981
特別寄付金収入	270,000	313,981	△ 43,981
補助金収入	382,523	372,554	9,969
国庫補助金収入	38,909	37,551	1,358
県補助金収入	158,614	158,818	△ 204
市町村補助金収入	185,000	176,185	8,815
資産運用収入	1,000	165	835
受取利息・配当金収入	1,000	165	835
事業収入	43,358	40,753	2,605
補助活動収入	43,358	40,753	2,605
雑収入	8,456	10,096	△ 1,640
その他の雑収入	8,456	10,096	△ 1,640
借入金等収入	300,000	300,000	0
長期借入金収入	300,000	300,000	0
前受金収入	250,912	243,290	7,622
授業料前受金収入	138,460	131,705	6,755
入学金前受金収入	36,800	37,000	△ 200
実習費前受金収入	18,000	17,270	730
施設管理費前受金収入	40,320	38,415	1,905
雑費前受金収入等	17,332	18,900	△ 1,568
その他の収入	685,836	1,061,116	△ 375,280
その他の収入	685,836	1,061,116	△ 375,280
資金収入調整勘定	△ 182,782	△ 555,132	372,350
期末未収入金	0	△ 372,350	372,350
前期末前受金	△ 182,782	△ 182,782	0
前年度繰越支払資金	646,336	646,336	
収入の部合計	2,737,665	2,765,173	△ 27,508

(単位：千円)

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	435,913	423,150	12,763
教員人件費支出	304,152	299,895	4,257
職員人件費支出	125,831	121,391	4,439
退職金支出	5,930	1,864	4,066
教育研究経費支出	150,503	140,765	9,738
消耗品費支出	13,837	16,701	△ 2,864
光熱水費支出	18,783	17,631	1,152
旅費交通費支出	5,416	3,961	1,454
奨学費支出	16,180	16,130	50
印刷製本費支出	7,002	6,205	797
出版物費支出	10,962	9,776	1,186
教員研究費支出	10,000	5,604	4,396
報酬・委託・手数料支出	47,959	49,697	△ 1,738
その他の支出	20,364	15,060	5,304
管理経費支出	114,576	113,581	995
光熱水費支出	2,775	2,720	55
旅費交通費支出	3,512	3,516	△ 4
賃借料支出	48,324	45,132	3,192
広報費支出	31,959	36,403	△ 4,444
報酬・委託・手数料支出	9,783	11,669	△ 1,886
雑費支出	2,791	4,114	△ 1,323
その他の支出	15,432	10,027	5,405
借入金等利息支出	3,500	3,461	39
借入金等返済支出	65,404	65,366	38
施設関係支出	661,484	656,974	4,510
建物支出	446,147	385,912	60,235
建物附属設備支出	145,759	241,067	△ 95,308
その他の支出	69,578	29,994	39,584
設備関係支出	174,582	168,805	5,777
教育研究用機器備品支出	130,030	150,599	△ 20,569
その他機器備品支出	32,702	7,001	25,701
その他の支出	11,850	11,205	645
その他の支出	516,187	887,111	△ 370,924
[予 備 費]	6,000		6,000
資金支出調整勘定	△ 649	△ 340,304	339,655
期末未払金	0	△ 339,009	339,009
前期末前払金	△ 649	△ 1,295	646
次年度繰越支払資金	610,165	646,264	△ 36,099
支 出 の 部 合 計	2,737,665	2,765,173	△ 27,507

2. 平成24年度消費収支計算書

学校会計の収支計算（消費収支計算）においては、授業料等の負債とならない収入を「帰属収入」といい、ここから資産の取得（施設・設備の購入）相当額等を基本金組入額として控除した額を「消費収入」としており、企業の損益計算に近い計算構造となっている。

24年度の帰属収入は、補助金収入 372 百万円、特別寄付金 314 百万円（うち医療法人鉄蕉会 200 百万円、その他の法人・個人 114 百万円）、学生生徒納付金等 320 百万円、補助活動収入 40 百万円等、合計 1,069 百万円となった。

特別寄付金の帰属収入に対する割合は 29.3%（大学 31.5%、専門学校 24.1%）であり、医療法人鉄蕉会を初めとする法人及び多くの個人からの寄付に支えられているのが当法人の特徴であり、引き続き費用対効果の高い適格な業務執行が望まれる。

また、施設設備整備等に伴い学校法人会計基準に基づき、帰属収入から 752 百万円（大学 697 百万円、専門学校 54 百万円）の基本金組入を行った。

この結果、消費収入の部合計（帰属収入△基本金組入）は 317 百万円（大学 48 百万円、専門学校 269 百万円）となった。

主たる消費支出は、人件費 423 百万円（大学 240 百万円、専門学校 178 百万円、法人部門 5 百万円）、教育研究経費（減価償却費を含む）225 百万円（大学 162 百万円（うち減価償却費 79 百万円）、専門学校 63 百万円（うち減価償却費 5 百万円））、管理経費支出（減価償却費を含む）128 百万円（法人本部 4 百万円、大学 73 百万円、専門学校 49 百万円）、消費支出合計（経常経費）は 780 百万円（法人本部 9 百万円、大学 478 百万円、専門学校 293 百万円）となった。

この結果、当年度消費収入超過額は△462 百万円（法人本部△9 百万円、大学△430 百万円、専門学校△23 百万円）、翌年度繰越消費収入超過額は 413 百万円（法人本部 11 百万円、大学 344 百万円、専門学校 58 百万円）となった。

また、大学部門における経常経費依存率、人件費依存率、教育研究費構成比率、消費支出比率、学生生徒納付金比率等の財務比率等は以下のとおりとなった。

財務比率には平成 24 年度が開学初年度であること及び帰属収入に補助金収入等の相当額の設置財源が含まれていること等が顕著に現れており平成 21 年度保健系単一学部全国平均との単純比較は困難であるものの、引き続き財務比率改善（財務基盤の安定強化）に取り組む必要があると認められる。

- ・ 経常経費依存率（消費支出÷学生生徒等納付金）
243.1%（平成 21 年度保健系単一学部全国平均 139.6%）
- ・ 人件費依存率（人件費÷学生生徒納付金）
131.8%（〃 72.0%）
- ・ 教育研究費構成比率（教育研究費÷消費支出）
28.9%（〃 25.2%）
- ・ 消費支出比率（消費収入÷帰属収入）
29.6%（〃 108.0%）
- ・ 学生生徒納付金比率（学生生徒納付金÷帰属収入）
30.0%（〃 77.4%）
- ・ 基本金組入比率（基本金組入額÷帰属収入）
70.3%（〃 12.6%）
- ・ 人件費比率（人件費÷帰属収入）
39.6%（〃 55.7%）
- ・ 借入金等利息比率（借入金等利息÷帰属収入）
0.2%（〃 0.4%）
- ・ 大学部門 学生 1 人当たり経常経費（経常経費 478 百万円÷収容人員 84 人）
5,695 千円>初年度学生生徒納付金等 1,800 千円（うち入学金 300 千円）

消費収支計算書

(単位：千円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	319,565	320,980	△ 1,415
授 業 料	196,921	198,206	△ 1,285
入 学 金	40,500	40,500	0
実験実習料	20,000	20,000	0
施設管理費	56,892	57,002	△ 110
雑費	5,252	5,272	△ 20
手数料	12,461	11,033	1,428
入学検定料	8,865	8,115	750
試験料	3,410	2,707	703
証明手数料	186	211	△ 25
寄 付 金	270,000	314,352	△ 44,352
特別寄付金	270,000	313,981	△ 43,981
現物寄付金	0	371	△ 371
補 助 金	382,523	372,554	9,969
国庫補助金	38,909	37,551	1,358
県補助金	158,614	158,818	△ 204
市町村補助金	185,000	176,185	8,815
資産運用収入	1,000	165	835
受取利息・配当金	1,000	165	835
事業収入	43,358	40,753	2,605
補助活動収入	43,358	40,753	2,605
雑 収 入	8,456	10,096	△ 1,640
その他の雑 収 入	8,456	10,096	△ 1,640
帰属収入合計	1,037,363	1,069,933	△ 32,570
基本金組入額合計	△ 1,082,740	△ 752,177	△ 330,563
消費収入の部合計	△ 45,377	317,756	△ 363,133

(単位：千円)

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	437,258	423,113	14,145
教員人件費	304,152	299,894	4,257
職員人件費	125,831	121,391	4,439
退職給与引当金繰入額	7,275	1,826	5,449
教育研究経費	235,303	225,559	9,744
消耗品費	13,837	16,701	△ 2,864
光熱水費	18,783	17,631	1,152
旅費交通費	5,416	3,961	1,454
福利費	5,190	5,232	△ 42
通信運搬費	3,430	2,843	587
印刷製本費	7,002	6,205	797
出版物費	10,962	9,785	1,177
教員研究費	10,000	5,604	4,396
報酬・委託・手数料	47,959	49,697	△ 1,738
減価償却額	84,800	84,785	15
その他費用	27,924	23,115	4,809
管理経費	129,551	128,030	1,521
消耗品費	2,959	2,364	595
光熱水費	2,775	2,720	55
旅費交通費	3,512	3,516	△ 4
賃借料	48,324	45,132	3,192
広報費	31,959	36,403	△ 4,444
渉外費	1,420	642	778
報酬・委託・手数料	11,783	11,858	△ 75
減価償却額	14,975	14,449	526
雑費	2,791	4,115	△ 1,324
その他の支出	9,053	6,831	2,222
借入金等利息	3,500	3,461	39
資産処分差額	0	32	△ 32
図書廃棄差額	0	32	△ 32
[予備費]	6,000		6,000
消費支出の部合計	811,612	780,195	31,416
当年度消費収入(支出)超過額(△)	△ 856,989	△ 462,439	
前年度繰越消費収入(支出)超過額(△)	875,769	875,769	
翌年度繰越消費収入(支出)超過額(△)	18,780	413,330	

3. 平成24年度貸借対照表

資産の部については、固定資産は亀田医療大学に係る施設（学生会館新営）・設備（教育研究機器備品）整備並びに専門学校学生寮の整備等に伴い 2,802 百万円（大学 2,507 百万円、専門学校 295 百万円）と対前年度 726 百万円の増となった。また、流動資産は 1,022 百万円（法人本部 11 百万円、大学 813 百万円（現預金 476、未収入金 332）、専門学校 198 百万円（現預金 158、未収入金 39））となり対前年度比△311 百万円となった。

この結果、資産総額は 3,825 百万円と対前年度比 414 百万円増（+12.2%）となった。

負債の部は、固定負債 468 百万円（長期借入金 376 百万円（大学 283 百万円、専門学校 93 百万円）、退職給与引当金 63 百万円（大学 7 百万円、専門学校 55 百万円）長期未払金 28 百万円）、対前年度比 304 百万円の増となった。また、流動負債 585 百万円（未払金 331 百万円（大学 304、専門学校 7）、前受金（学生生徒納付金等）243 百万円（大学 144、専門学校 99）等）、合計 1,053 百万円（対前年度比 125 百万円の増）となった。

なお大学部門流動負債には科研費預り金等の競争的資金（直接経費）が 653 千円含まれている。（平成 24 年度における科研費等は、24 年度採用教員に係る科研費分担金等 6 件 2,706 千円（直接経費 2,211 千円、間接費 495 千円））

また、24 年度中に本学教員から申請された 25 年度科研費は、申請件数 7 件、採択件数 3 件（いずれも基礎研究（c）研究費 11,600 千円、間接経費 3,480 千円、計 15,090 千円）であり、更なる積極的な競争的資金の確保が望まれる。

基本金の部については、第 1 号基本金は大学関連施設設備整備等に伴い 2,232 百万円（対前年度 808 百万円の増）、第 2 号基本金は第 1 号基本金への振替に伴い 86 百万円（対前年度△63 百万円）、第 4 号基本金は 39 百万円（大学 7 百万円（皆増））、合計 2,358 百万円（対前年度 752 百万円の増）となった。

これらの結果、負債の部、基本金の部、消費収支差額の部の合計は、資産の部と同額の 3,825 百万円となった。

また、大学部門における負債比率、自己資金構成比率、流動比率等の財務比率は以下のとおりであり、開設初年度であることが顕著に現れている。

- ・負債比率（（総負債△前受金）÷総資産）
21. 1%（平成 21 年度保健系単一学部全国平均 9. 7%）
- ・自己資本構成比率（自己資金÷総資産）
72. 4%（＼ 83. 0%）
- ・流動比率（流動資産÷流動負債）
174. 8%（＼ 231. 6%）
- ・固定長期適合率
86. 5%（＼ 85. 4%）
- ・前受金構成比率（現金預金÷前受金）
265, 6%（＼ 35. 9%）

貸借対照表

(単位：千円)

資 産 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 資 産	2,802,080	2,075,805	726,275
有形固定資産	2,794,988	2,068,129	726,859
土 地	101,600	79,600	22,000
建 物	2,228,296	1,596,141	632,155
構 築 物	82,891	79,397	3,494
教育研究用機器備品	312,976	189,765	123,211
その他の機器備品	24,696	22,316	2,379
図 書	44,526	33,159	11,367
車 輛	0	98	△ 98
建設仮勘定	0	67,650	△ 67,650
その他の固定資産	7,092	7,676	△ 584
流 動 資 産	1,022,886	1,334,492	△ 311,606
現金預金	646,263	646,336	△ 73
未収入金	372,350	685,836	△ 313,486
前 払 金	4,187	1,295	2,891
その他流動資産	86	1,025	△ 750
資 産 の 部 合 計	3,824,966	3,410,297	414,668
負 債 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 負 債	467,836	163,422	304,414
流 動 負 債	585,231	764,715	△ 179,484
未 払 金	311,357	516,187	△ 204,830
前 受 金	243,290	182,782	60,508
その他科目	30,584	65,746	△ 35,162
負 債 の 部 合 計	1,053,067	928,137	124,930
基 本 金 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	2,232,775	1,424,360	808,415
第2号基本金	86,793	150,031	△ 63,238
第4号基本金	39,000	32,000	7,000
基 本 金 の 部 合 計	2,358,568	1,606,391	752,177
消 費 収 支 差 額 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入(支出)超過額(△)	413,330	875,769	△ 462,439
消費収支差額の部合計	413,330	875,769	△ 462,439
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	3,824,966	3,410,297	414,669

4. 平成24年度財産目録

財産目録は以下のとおりであり基本的に貸借対照表計上額と同様である。

学校法人鉄蕉館		財 産 目 録	
平成 25 年 3 月 31 日			
(資 産 の 部)			(単位：円)
I 基本財産			
1. 有形固定資産			
(1) 土地	専門学校校舎、学生寮敷地	101,600,000	
(2) 建物	大学、専門学校2号館校舎、学生寮	1,580,680,816	
(3) 建物附属設備	大学、専門学校、学生寮設備	647,616,422	
(4) 構築物	大学、学生寮外構	82,891,439	
(5) 機器備品	一式	337,672,749	
(6) 図書	一式	44,526,568	
(7) 車輛		1	2,794,987,995
2. その他の固定資産			
(1) 施設利用権		1,555,950	
(2) その他		5,535,866	7,091,816
II 運用財産			
1. 現金預金		646,263,774	
2. 未収入金		372,350,000	
3. その他		4,272,205	1,022,885,979
資 産 合 計			3,824,965,790
(負 債 の 部)			
I 固定負債			
1. 長期借入金		376,799,807	
2. 退職給与引当金		63,383,920	
3. 長期未払金		27,652,647	467,836,374
II 流動負債			
1. 短期借入金		17,834,282	
2. 未払金		311,356,705	
3. その他		256,040,281	585,231,268
負 債 合 計			1,053,067,642
差 引 正 味 財 産			2,771,898,148